



好學愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸の言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

おかげさまで

教頭 竹井 俊久

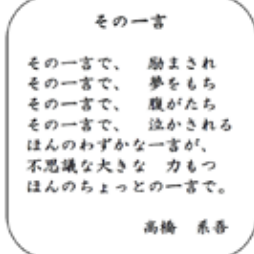
弥生三月となり、早いもので一年が過ぎようとしています。昨年四月に入学した一年生は、学校に慣れ、身体だけでなく心も逞しく成長してきました。生徒たちのこの一年間の成長ぶりには、目を見張るものがあります。生徒たちは、日々の授業や学校生活の中で、自分や友だちの良さを見つけ、互いの違いを認め合い、体育祭や文化祭ではクラスや学年でまとまってやり遂げることの喜びを体感してくれました。一つ一つの学校行事を充実させるために、生徒たちは相当な日数をかけ準備をして参りましたが、保護者や地域の皆様の深い御理解と温かい御支援があり、すべてを成功裏に終えることができました。心から感謝申し上げます。

私は毎日校内の様々な場所を移動しながら清掃しています。生徒たちの中には大きくいろいろなことを語りかけてくれる人もいれば、反面、こちらから声をかけても緊張して返事しかできない人もいます。しかしながら、たわいもない会話の中で、生徒たちは鶴丸生という大きな集団がどうあるべきかなど、個人あるいは集団レベルで物事を考えていることがわかります。大きく生徒たちが成長し続けていることを実感させられました。人は人とかかわって、互いに磨き合いながら成長していきまします。この一年、生徒一人ひとりが確実に成長できたことを嬉しく思います。

まります。次に、その体得した型を自分に合うよう研究・工夫して既存の型を「破ります。最終的には、さらに発展させて型から「離れ、自分なりの型を創り上げるというものです。この考えは、人の成長における不易の部分です。学業や運動も同じ。まさに文武一道です。日々の課題解決を地道に積み重ねていくとともに、「おかげさま」の気持ちで努力を続け、自分の幅を広げ、力をつけてほしいと願っています。

二つ目は、言葉を大切にしたい、言葉に責任を持ってほしいということ。東日本大震災のとき、アメリカ軍には、当初アメリカ人だけを助ける命令が下っていたそうです。目の前に被災した助けるべき日本人がいても、何もできない日々が続く、現場で働くアメリカ軍人の多くが上官に何度もお願いをしたそうです。その結果「日本はトモダチ、すぐ助けてほしい」という命令に切り替わり、「トモダチ作戦」が実行され二万四千人のアメリカ人が日本の復興を手伝ってくれました。トモダチを助けるという言葉で、多くのアメリカ軍が、余震の続く中、福島原発からくる放射能の脅威にさらされながらも、懸命に救援作業、復興作業に関わってくれました。心から感動する話です。

古来より言葉は「言霊(ことだま)」と呼ばれ、人の口から発せられた言葉には、魂が宿ると言われています。そのため、このように人を救うのも言葉の力で、ときには傷つける刃にもなってしまうのも言葉の力です。ぜひみなさん、言葉の力を理解し、良い家族、良い友人、良い学校、良い世の中を作れるような「言葉」をたくさん発してください。最後にになりましたが、保護者や地域の



皆様の御期待に応えられるよう、生徒・職員一同さらに努力してまいります。次年度もどうぞよろしく願っています。

思い切り振り抜くために

数学科 鮎川 武良

真山知幸氏が著書の中で、喜劇王チャップリンの言動を分析し、チャップリンを掴む準備の重要性について、次のように主張している。(以下、引用)

チャップリンは自伝で次のように書いている。「新聞売り、印刷工、おもちゃ職人、ガラスふき、診療所の受付、等々と、あらゆる職業を転々としたが、その間も俳優になるという最終目標だけは、一度として見失わなかった。いくつもの寸劇を行いつつながら、大きなチャンスが巡ってきたのは、十七歳の時だった。イギリスの劇団のオーナーから『フットボール試合』という芝居で、ハリイ・ウェルドンという当時から博したコメディアンと同じ舞台上立つチャンスを与えられたのである。「どうだ、『フットボール試合』でハリイ・ウェルドンの相手役がやれるかね?」突然、転がり込んできたチャンス。チャップリンは戸惑うことなく、堂々とこう答えた。「え、私に必要なのは、チャンスだけです」舞台は主演を完全に食ってしまうほどの活躍ぶり、評論家たちはこぞってチャップリンを絶賛した。

チャップリンが秀でていたのは、いつでも「チャンスさえあればやれる」ように準備をしていたことだ。さまざまな職業で生活資金を稼ぐ一方で、舞台の場数も踏み、経験を積んでいた。環境や他人のせいにすることなく、ただ自らの才能を信じて前に進み続けたのである。

なのである。(以上、真山知幸著『君の歳にあの偉人は何を語ったか』から引用)

また、「何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続しているのは非常に大変なことであり、私は、それこそが才能だと思っている」と述べている。

私が引用したこれらの言葉を、高校生である生徒諸君に置き換えると、日々の学習(練習)がすぐに結果につながるわけではないが、日々の学習(練習)を高い意識、集中力、向上心をもって継続することが自己実現につながるということになる。また、「全力を尽くす」とは、今から一年後、二年後の目標を見据えて、日々の学習(練習)を情熱、気力、モチベーションをもって継続することなのだ!

これは私の高校時代最後の打席の話である。今でも夢に見る。「思い切り振り抜け! 躊躇するな!」結果が変わるかわからない。でも、振り抜いておけば...。悔いが残る。なぜ、止めてしまったのだろうか。覚悟! 思い切り! 準備! 勇気! いろんなことが少しずつ足りなかったように思う。

若鶴に栄光あれかし

六十七回卒業式

三月一日、三十四名の卒業生たちは、卒業証書を授与され、学び舎を巣立っていった。式辞の中で校長は、「皆さんには、困難に打ち克ち、厳しい現実を変革していくエネルギーがあります。目先の結果ばかりに一喜一憂せず、長期にわたる目標を持ち、何事にも挑戦してください」と卒業生に言葉を贈った。

また、在校生を代表して、花田葉依香さんが、「先輩方の毅然とした背中には、今も私たちの前に凛と立ち、私たちの進むべき道を示してくださっています」と語った。これに対して、卒業生代表の松下源さんが、「(後輩の)皆さんの努力する姿に鼓舞されて、鶴丸を守る責任を果たすことができました」と述べ、これから鶴丸を牽引する後輩に向けて、第十六代アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンの言葉を借りて、「そこでき生きること誇りを持つだけでなく、そこに生きる人たちの誇りとなるような人間であってほしい」とメッセージを送った。また、「鶴丸での『かへらざる三年』で培った『For Others』の精神を胸に、いかなる困難にも臆することなく、地球のために、人類のために邁進していきます」と新たな決意を述べた。



平成二十八年定期人事異動

三月二十二日、教職員定期人事異動が発表されました。今年度、本校を転退職する教職員は次の通りです。

- 竹井俊久(教頭) 志布志高校校長
福留和宏(教頭) 高校教育課参事
立森秀行(国語) 教職員課専門員
脇田政人(地歴公民) 川辺高校
宮原誠(数学) 加治木高校
鮎川武良(数学) 伊集院高校
鮎川修(理科) 川内高校
除川創(英語) 奄美高校
上村英治(英語) 期限付退職
有村浩二(事務次長) 屋久島高校事務長

4月の行事予定

Calendar table with columns for date, day, and event details. Includes events like '新任式 前期始業式' and '健康診断'.